

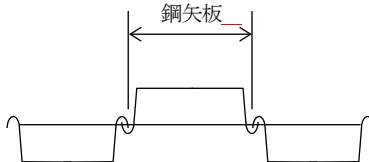
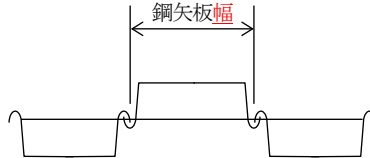
土木関係工事数量算出要領

新 旧 対 照 表

令和 7 年版
(令和 7 年11月)

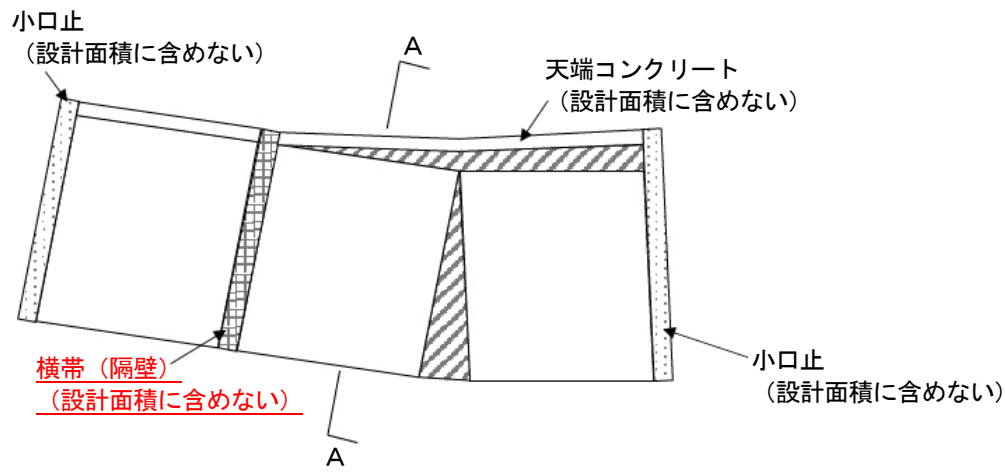
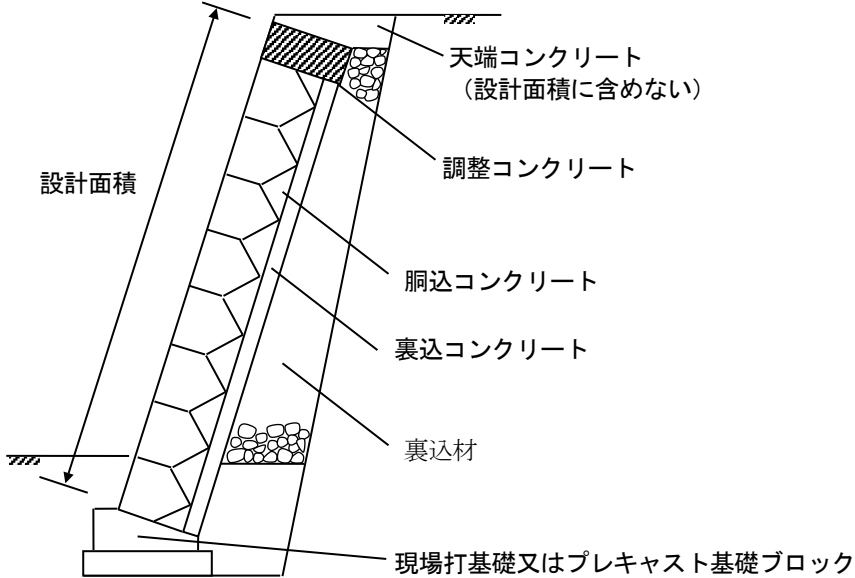
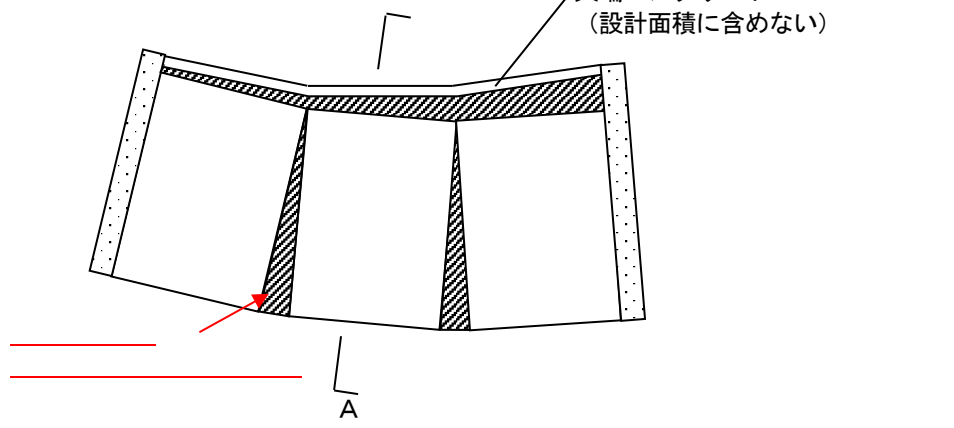
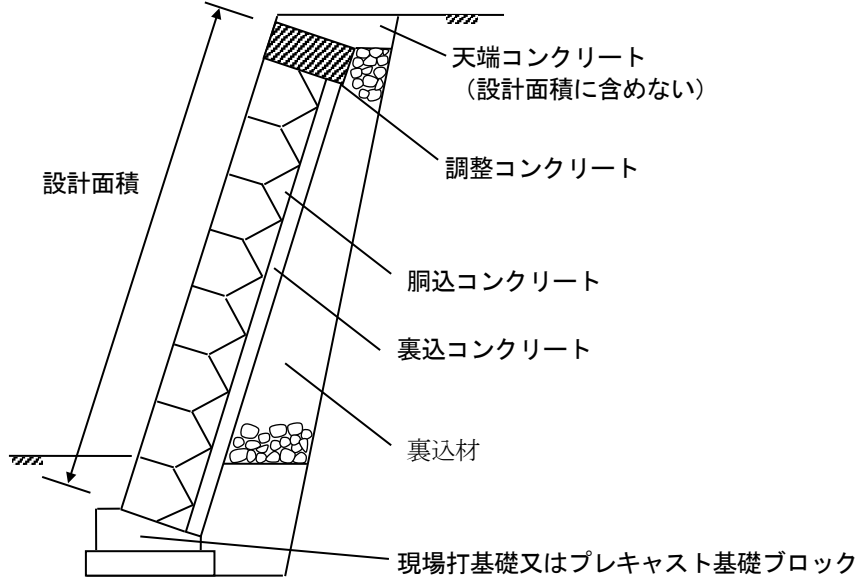
ページ	改 正					現 行				
P. 1-1-8	〔別表-1〕設計表示単位					〔別表-1〕設計表示単位				
	種 別	細 別	設計表示単位	数 位		種 別	細 別	設計表示単位	数 位	
	切土					切土				
	掘削工（ＩＣＴ）	土砂掘削	m ³	100	但し 1000m ³ 未満は 10m ³	掘削工（ＩＣＴ）	土砂掘削	m ³	100	但し 1000m ³ 未満は 10m ³
		軟岩掘削	m ³	10			軟岩掘削	m ³	10	
		硬岩掘削	m ³	10			硬岩掘削	m ³	10	
	盛土					盛土				
	盛土（ＩＣＴ）	流用土盛土	m ³	100	但し 1000m ³ 未満は 10m ³	盛土（ＩＣＴ）	流用土盛土	m ³	100	但し 1000m ³ 未満は 10m ³
		発生土盛土	m ³	100	但し 1000m ³ 未満は 10m ³		発生土盛土	m ³	100	但し 1000m ³ 未満は 10m ³
		採取土盛土	m ³	100	但し 1000m ³ 未満は 10m ³		採取土盛土	m ³	100	但し 1000m ³ 未満は 10m ³
		購入土盛土	m ³	100	但し 1000m ³ 未満は 10m ³		購入土盛土	m ³	100	但し 1000m ³ 未満は 10m ³
	法面整形工					法面整形工				
	法面整形工（ＩＣＴ）	法面整形（切取部）	m ²	10		法面整形工（ＩＣＴ）	法面整形（切取部）	m ²	10	
		法面整形（盛土部）	m ²	10			法面整形（盛土部）	m ²	10	
	盛土補強壁					盛土補強壁				
		盛土補強壁	m ³	100	但し 1000m3 未満は 10m3		盛土補強壁	m ³	100	但し 1000m3 未満は 10m3
	作業残土処理工					作業残土処理工				
		作業残土処理	m ³	10			作業残土処理	m ³	10	
	安定処理工					路床安定処理工				
		安定処理	m ²	10	但し 1000 m ² 未満は 1 m ²		安定処理	m ²	10	但し 1000 m ² 未満は 1 m ²
	置換工					置換工				
		置換	m ³	100	但し 1000m ³ 未満は 10m ³		置換	m ³	100	但し 1000m ³ 未満は 10m ³
	サンドマット工					サンドマット工				
		サンドマット	m ²	10			サンドマット	m ²	10	
		安定シート	m ²	10			安定シート	m ²	10	
	バーチカルドレーン工					バーチカルドレーン工				
		サンドドレーン	本	1			サンドドレーン	本	1	
		PVD（ﾌﾞﾚﾌｧﾌﾞﾘｹｲﾃｯﾄﾞﾊﾞｰﾁｶﾙﾄﾞ	本	1			PVD（ﾌﾞﾚﾌｧﾌﾞﾘｹｲﾃｯﾄﾞﾊﾞｰﾁｶﾙﾄﾞ	本	1	
	締固め改良工					締固め改良工				
		サンドコンパクションパイル	本	1			サンドコンパクションパイル	本	1	
	固結工					固結工				
							粉体噴射攪拌	本	1	
		スラリー攪拌	本	1			スラリー攪拌	本	1	
		高圧噴射攪拌	本	1			高圧噴射攪拌	本	1	
		中層混合処理	m ³	1			中層混合処理	m ³	1	
		薬液注入	本	1			薬液注入	本	1	
	(略)					(略)				

ページ	改 正	現 行
P.2-3-11	4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編 共通 第1章 基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。 (1) ベント設備質量 トラッククレーン等によるベント工法で使用するベントについては、別途現場条件、桁の架設条件に応じたベント設備計画を行うものとする。 (2) ベント基礎鋼板 ベント基礎で鋼板を用いる場合の述べ面積（A）は次式による。 $A = \sum A_i$ $A_i = (B + 2) \times 3$ ただし、A_i：ベント1基当りの基礎の面積 B：外桁～外桁間隔（箱桁は外 Web～外 Web 間隔）（m） h：ベント高さ（基礎天端から主桁下端まで）（m） なお、A_i、B、hとも小数第1位止（2位四捨五入）とする。 ベント設備（参考図）	4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編 共通 第1章 基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。 (1) ベント設備質量 トラッククレーン等によるベント工法で使用するベントについては、別途現場条件、桁の架設条件に応じたベント設備計画を行うものとする。 (2) ベント基礎鋼板 ベント基礎で鋼板を用いる場合の述べ面積（A）は次式による。 $A = \sum A_i$ $A_i = (B + 2) \times 3$ ただし、A_i：ベント1基当りの基礎の面積 B：外桁～外桁間隔（箱桁は外 Web～外 Web 間隔）（m） h：ベント高さ（基礎天端から主桁下端まで）（m） なお、A_i、B、hとも小数第1位止（2位四捨五入）とする。 ベント設備（参考図）

ページ	改正	現行																																																												
P.2-5-2	5.2 鋼矢板工 1. 適用 構造物及び護岸の基礎工事における鋼矢板工に適用する。 2. 数量算出項目 鋼矢板工の延長、枚数、質量を区分ごとに算出する。 3. 区分 区分は、工種、作業区分、施工場所、規格、矢板長、N値、継施工の有無とする。 (1) 数量算出項目及び区分一覧表 <table><tr><th>項目\区分</th><th>工種</th><th>作業区分</th><th>施工場所</th><th>規格</th><th>矢板長</th><th>N値</th><th>継施工の有無</th><th>単位</th><th>数量</th><th>備考</th></tr><tr><td>延長</td><td rowspan="3">○</td><td rowspan="3">○</td><td rowspan="3">○</td><td rowspan="3">○</td><td rowspan="3">○</td><td rowspan="3">○</td><td rowspan="3">○</td><td>m</td><td></td><td></td></tr><tr><td>枚数</td><td>枚</td><td></td><td></td></tr><tr><td>質量</td><td>t</td><td></td><td></td></tr></table> (2) 規格及び矢板長区分 矢板の材質、型式、1枚当り長さごとに区分して算出する。 4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編 共通 第1章 基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。 (1) 施工枚数は、鋼矢板の中心線の長さを1枚当りの幅で除した値とし、小数以下の端数は切上げて整数にまとめるものとする。 異型矢板及び継矢板は組数を算出し、施工略図を示すこと。  ◎鋼矢板の質量算出例 施工延長 L＝23.6m、Ⅲ型 H＝10m の場合 工事数量総括表 23m 積算 35.4t 23.6÷0.4＝59 59枚×0.06t/m ×10＝35.4t	項目\区分	工種	作業区分	施工場所	規格	矢板長	N値	継施工の有無	単位	数量	備考	延長	○	○	○	○	○	○	○	m			枚数	枚			質量	t			5.2 鋼矢板工 1. 適用 構造物及び護岸の基礎工事における鋼矢板工に適用する。 2. 数量算出項目 鋼矢板工の延長、枚数、質量を区分ごとに算出する。 3. 区分 区分は、工種、規格、矢板長とする。 (1) 数量算出項目及び区分一覧表 <table><tr><th>項目\区分</th><th>工種</th><th></th><th></th><th>規格</th><th>矢板長</th><th></th><th></th><th>単位</th><th>数量</th><th>備考</th></tr><tr><td>延長</td><td rowspan="3">○</td><td rowspan="3">—</td><td rowspan="3">—</td><td rowspan="3">○</td><td rowspan="3">○</td><td rowspan="3">—</td><td rowspan="3">—</td><td>m</td><td></td><td></td></tr><tr><td>枚数</td><td>枚</td><td></td><td></td></tr><tr><td>質量</td><td>t</td><td></td><td></td></tr></table> (2) 規格及び矢板長区分 矢板の材質、型式、1枚当り長さごとに区分して算出する。 4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編 共通 第1章 基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。 (1) 施工枚数は、鋼矢板の中心線の長さを1枚当りの幅で除した値とし、小数以下の端数は切上げて整数にまとめるものとする。 異型矢板及び継矢板は組数を算出し、施工略図を示すこと。  ◎鋼矢板の質量算出例 施工延長 L＝23.6m、Ⅲ型 H＝10m の場合 工事数量総括表 23m 積算 35.4t 23.6÷0.4＝59 59枚×0.06t/m ×10＝35.4t	項目\区分	工種			規格	矢板長			単位	数量	備考	延長	○	—	—	○	○	—	—	m			枚数	枚			質量	t		
項目\区分	工種	作業区分	施工場所	規格	矢板長	N値	継施工の有無	単位	数量	備考																																																				
延長	○	○	○	○	○	○	○	m																																																						
枚数								枚																																																						
質量								t																																																						
項目\区分	工種			規格	矢板長			単位	数量	備考																																																				
延長	○	—	—	○	○	—	—	m																																																						
枚数								枚																																																						
質量								t																																																						

ページ	改 正	現 行
P.2-5-8	5.4 場所打杭工、深礎工 1. 適用 土木建造物の場所打杭工、深礎杭工に適用する。 2. 数量算出項目 場所打杭、深礎杭の数量を区分ごとに算出する。 3. 区分 区分は、構造物、杭種、杭径、杭長とする。 (1) 数量算出項目及び区分一覧表 1) 場所打杭……別紙－1 参照 2) 深礎杭 ……別紙－2 参照 4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編 共通 第1章 基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。 (1) 全回転式オールケーシング工 別紙－1 の数量のほか下記の項目について算出する。 1) 土質別の掘削長 杭打込長の最小単位は、0.1 mを標準とする。 土質による区分は、以下の通りとする。 土質 レキ質土、粘性土、砂及び砂質土 岩塊・玉石 軟岩Ⅰ 軟岩Ⅱ 中硬岩 硬岩Ⅰ 2) コンクリート量 $Q=\pi/4\times D^2\times L$ Q：杭1本当りのコンクリート使用量・・・(m³/本) D：設計杭径・・・(m) L：設計杭長・・・(m) 3) 杭頭処理取壊コンクリート量 $Q=\pi/4\times D^2\times L_1$ Q：杭頭処理取壊コンクリート量・・・(m³/本) D：設計杭径・・・(m) L₁：杭頭処理長・・・(m)	5.4 場所打杭工、深礎工 1. 適用 土木建造物の場所打杭工、深礎杭工に適用する。 2. 数量算出項目 場所打杭、深礎杭の数量を区分ごとに算出する。 3. 区分 区分は、構造物、杭種、杭径、杭長とする。 (1) 数量算出項目及び区分一覧表 1) 場所打杭……別紙－1 参照 2) 深礎杭 ……別紙－2 参照 4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編 共通 第1章 基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。 (1) 全回転式オールケーシング工 別紙－1 の数量のほか下記の項目について算出する。 1) 土質別の掘削長 杭打込長の最小単位は、0.1 mを標準とする。 土質による区分は、以下の通りとする。 土質 レキ質土、粘性土、砂及び砂質土 岩塊・玉石、軟岩Ⅰ 軟岩Ⅱ 硬岩Ⅰ・中硬岩 2) コンクリート量 $Q=\pi/4\times D^2\times L$ Q：杭1本当りのコンクリート使用量・・・(m³/本) D：設計杭径・・・(m) L：設計杭長・・・(m) 3) 杭頭処理取壊コンクリート量 $Q=\pi/4\times D^2\times L_1$ Q：杭頭処理取壊コンクリート量・・・(m³/本) D：設計杭径・・・(m) L₁：杭頭処理長・・・(m)

ページ	改 正	現 行																					
P. 2-5-9	(削る。)	(2) <u>アースオーガ・硬質地盤用アースオーガ工</u> <u>別紙ー 1 の数量のほか下記の項目について算出する。</u> 1) <u>土質別の掘削長及び土質係数</u> <u>杭打込長の最小単位は、0. 1 mを標準とする。</u> <u>土質による区分は、以下の通りとする。</u> 土質 土 (レキ質土、粘性土、砂及び砂質土) 岩塊玉石 軟岩 (Ⅰ)、軟岩 (Ⅱ) <u>土質係数は掘削する土質毎の係数を加重平均して算出する。なお土質係数は、小数第 2 位を四捨五入し小数第 1 位とする。</u> $(\alpha 1 \times L 1) + (\alpha 2 \times L 2) + \cdots$ $L 1 + L 2 + \cdots$ αn : 各土質の土質係数 (次表) $L n$: 各土質の掘削長 (m) 土質係数 <table><tr><th> N値 土質 </th><th>土</th><th>岩塊玉石</th><th>軟岩Ⅰ 軟岩Ⅱ</th></tr><tr><td>2 0 未満</td><td>1. 0</td><td>3. 2</td><td>1. 8</td></tr><tr><td>2 0 以上</td><td>1. 1</td><td></td><td></td></tr></table> 2) <u>アースオーガによるモルタル杭</u> $Q = \pi / 4 \times D^2 \times L \times 1 0$ <u>Q : 杭 1 0 本当りのモルタル使用量・・ (m³ / 1 0 本)</u> <u>D : 杭径・・・・・ (m)</u> <u>L : 打設長・・・・・ (m)</u> 3) <u>鉄筋かご等</u> <u>鉄筋かご等は、下表のとおり区分して算出する。</u><table><tr><th></th><th>長さ (m)</th><th>質量 (t)</th></tr><tr><td>鉄 筋 か ご</td><td>〇</td><td>〇</td></tr><tr><td>H 形 鋼</td><td>〇</td><td>〇</td></tr></table>	N値 土質	土	岩塊玉石	軟岩Ⅰ 軟岩Ⅱ	2 0 未満	1. 0	3. 2	1. 8	2 0 以上	1. 1				長さ (m)	質量 (t)	鉄 筋 か ご	〇	〇	H 形 鋼	〇	〇
N値 土質	土	岩塊玉石	軟岩Ⅰ 軟岩Ⅱ																				
2 0 未満	1. 0	3. 2	1. 8																				
2 0 以上	1. 1																						
	長さ (m)	質量 (t)																					
鉄 筋 か ご	〇	〇																					
H 形 鋼	〇	〇																					

ページ	改 正	現 行
P.2-8-12	8.5 コンクリートブロック積（張）エ 4. 参考図 (1) 調整コンクリート・小口止・<u>横帯（隔壁）</u>・天端コンクリート 正面図  ブロック積本体 調整コンクリート 小口止（設計面積に含めない） <u>横帯（隔壁）（設計面積に含めない）</u> 設計面積 A-A 断面  天端コンクリート （設計面積に含めない） 調整コンクリート 胴込コンクリート 裏込コンクリート 裏込材 現場打基礎又はプレキャスト基礎ブロック	8.5 コンクリートブロック積（張）エ 4. 参考図 (1) 調整コンクリート・小口止・天端コンクリート 正面図  ブロック積本体 調整コンクリート 小口止（設計面積に含めない） 設計面積 A-A 断面  天端コンクリート （設計面積に含めない） 調整コンクリート 胴込コンクリート 裏込コンクリート 裏込材 現場打基礎又はプレキャスト基礎ブロック

ページ	改 正	現 行																																																									
P. 2-10-1	(削る。)	10.1 粉体噴射攪拌工（D J M工法） 1. 適用 粘性土、砂質土、シルト及び有機質土等の軟弱地盤を対象として行う粉体噴射攪拌工(改良材がセメント系及び石灰系の場合)に適用する。 2. 数量算出項目 杭施工本数、移設回数、軸間変更回数を区分ごとに算出する。 3. 区分 区分は、現場制約の条件、施工方法、打設長、杭長、規格、改良材使用量とする。 (1) 数量算出項目及び区分一覧表 <table><tr><th>区 分 項 目</th><th>現場制約 の有無</th><th>施 工 方 法</th><th>打設長</th><th>杭長</th><th>規格</th><th>改良材 使用量</th><th>単位</th><th>数量</th><th>備考</th></tr><tr><td>粉体噴射攪拌</td><td>○</td><td>＝</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>本</td><td></td><td></td></tr><tr><td>粉体噴射攪拌 (移 設)</td><td>＝</td><td>○</td><td>＝</td><td>＝</td><td>＝</td><td>＝</td><td>回</td><td></td><td></td></tr><tr><td>粉体噴射攪拌 (軸 間 変 更)</td><td>＝</td><td>＝</td><td>＝</td><td>＝</td><td>＝</td><td>＝</td><td>回</td><td></td><td></td></tr></table> 注) 1. 2軸施工の1日当り杭施工本数は、1軸当り1本として計上する。 2. バックホウによる先掘が必要な場合は別途算出する。 (2) 施工方法区分 施工方法による区分は以下の通りとする。 ①単軸施工 ②2軸施工 (3) 現場制約の有無、打設長、杭長区分 杭施工本数を、打設長（空打部長さ＋杭長）及び杭長ごとに区分して算出する。 施工本数は、杭間の移動、位置決め、貫入、引抜き（改良材噴射）までの一連の作業のものである。 <table><tr><th>現場制約の有無</th><th>打設長</th><th>杭長</th></tr><tr><td rowspan="11">有り</td><td rowspan="5">3 mを超え 6 m未満</td><td>2 m未満</td></tr><tr><td>2 m以上 3 m未満</td></tr><tr><td>3 m以上 4 m未満</td></tr><tr><td>4 m以上 5 m未満</td></tr><tr><td>5 m以上 6 m未満</td></tr><tr><td rowspan="6">6 mを超え 1 0 m未満</td><td>4 m以上 5 m未満</td></tr><tr><td>5 m以上 6 m未満</td></tr><tr><td>6 m以上 7 m未満</td></tr><tr><td>7 m以上 8 m未満</td></tr><tr><td>8 m以上 9 m未満</td></tr><tr><td>9 m以上 1 0 m未満</td></tr></table>	区 分 項 目	現場制約 の有無	施 工 方 法	打設長	杭長	規格	改良材 使用量	単位	数量	備考	粉体噴射攪拌	○	＝	○	○	○	○	本			粉体噴射攪拌 (移 設)	＝	○	＝	＝	＝	＝	回			粉体噴射攪拌 (軸 間 変 更)	＝	＝	＝	＝	＝	＝	回			現場制約の有無	打設長	杭長	有り	3 mを超え 6 m未満	2 m未満	2 m以上 3 m未満	3 m以上 4 m未満	4 m以上 5 m未満	5 m以上 6 m未満	6 mを超え 1 0 m未満	4 m以上 5 m未満	5 m以上 6 m未満	6 m以上 7 m未満	7 m以上 8 m未満	8 m以上 9 m未満	9 m以上 1 0 m未満
区 分 項 目	現場制約 の有無	施 工 方 法	打設長	杭長	規格	改良材 使用量	単位	数量	備考																																																		
粉体噴射攪拌	○	＝	○	○	○	○	本																																																				
粉体噴射攪拌 (移 設)	＝	○	＝	＝	＝	＝	回																																																				
粉体噴射攪拌 (軸 間 変 更)	＝	＝	＝	＝	＝	＝	回																																																				
現場制約の有無	打設長	杭長																																																									
有り	3 mを超え 6 m未満	2 m未満																																																									
		2 m以上 3 m未満																																																									
		3 m以上 4 m未満																																																									
		4 m以上 5 m未満																																																									
		5 m以上 6 m未満																																																									
	6 mを超え 1 0 m未満	4 m以上 5 m未満																																																									
		5 m以上 6 m未満																																																									
		6 m以上 7 m未満																																																									
		7 m以上 8 m未満																																																									
		8 m以上 9 m未満																																																									
		9 m以上 1 0 m未満																																																									

ページ	改 正	現 行																																																			
P.2-10-2	(削る。)	<table><tr><th>現場制約の有無</th><th>打設長</th><th>杭長</th></tr><tr><td rowspan="9">有り</td><td rowspan="4">1 0 mを超え 1 4 m未満</td><td>8 m以上 9 m未満</td></tr><tr><td>9 m以上 1 0 m未満</td></tr><tr><td>1 0 m以上 1 2 m未満</td></tr><tr><td>1 2 m以上 1 4 m未満</td></tr><tr><td rowspan="3">1 4 mを超え 1 7 m未満</td><td>1 2 m以上 1 4 m未満</td></tr><tr><td>1 4 m以上 1 5 m未満</td></tr><tr><td>1 5 m以上 1 7 m未満</td></tr><tr><td rowspan="2">1 7 mを超え 2 0 m未満</td><td>1 5 m以上 1 7 m未満</td></tr><tr><td>1 7 m以上 2 0 m未満</td></tr></table> <table><tr><th>現場制約の有無</th><th>打設長</th><th>杭長</th></tr><tr><td rowspan="25">無し</td><td rowspan="5">3 mを超え 6 m未満</td><td>2 m未満</td></tr><tr><td>2 m以上 3 m未満</td></tr><tr><td>3 m以上 4 m未満</td></tr><tr><td>4 m以上 5 m未満</td></tr><tr><td>5 m以上 6 m未満</td></tr><tr><td rowspan="5">6 mを超え 1 0 m未満</td><td>4 m以上 5 m未満</td></tr><tr><td>5 m以上 6 m未満</td></tr><tr><td>6 m以上 7 m未満</td></tr><tr><td>7 m以上 8 m未満</td></tr><tr><td>8 m以上 9 m未満</td></tr><tr><td rowspan="5">1 0 mを超え 1 5 m未満</td><td>9 m以上 1 0 m未満</td></tr><tr><td>8 m以上 9 m未満</td></tr><tr><td>9 m以上 1 0 m未満</td></tr><tr><td>1 0 m以上 1 2 m未満</td></tr><tr><td>1 2 m以上 1 4 m未満</td></tr><tr><td rowspan="4">1 5 mを超え 2 0 m未満</td><td>1 4 m以上 1 5 m未満</td></tr><tr><td>1 2 m以上 1 4 m未満</td></tr><tr><td>1 4 m以上 1 5 m未満</td></tr><tr><td>1 5 m以上 1 7 m未満</td></tr><tr><td rowspan="3">2 0 mを超え 2 7 m未満</td><td>1 7 m以上 2 0 m未満</td></tr><tr><td>2 0 m以上 2 3 m未満</td></tr><tr><td>2 3 m以上 2 7 m未満</td></tr><tr><td rowspan="3">2 7 mを超え 3 3 m未満</td><td>2 3 m以上 2 7 m未満</td></tr><tr><td>2 7 m以上 3 2 m未満</td></tr><tr><td>3 2 m以上 3 3 m未満</td></tr></table> (4) 規格区分 粉体噴射攪拌工の改良材の種類とする。	現場制約の有無	打設長	杭長	有り	1 0 mを超え 1 4 m未満	8 m以上 9 m未満	9 m以上 1 0 m未満	1 0 m以上 1 2 m未満	1 2 m以上 1 4 m未満	1 4 mを超え 1 7 m未満	1 2 m以上 1 4 m未満	1 4 m以上 1 5 m未満	1 5 m以上 1 7 m未満	1 7 mを超え 2 0 m未満	1 5 m以上 1 7 m未満	1 7 m以上 2 0 m未満	現場制約の有無	打設長	杭長	無し	3 mを超え 6 m未満	2 m未満	2 m以上 3 m未満	3 m以上 4 m未満	4 m以上 5 m未満	5 m以上 6 m未満	6 mを超え 1 0 m未満	4 m以上 5 m未満	5 m以上 6 m未満	6 m以上 7 m未満	7 m以上 8 m未満	8 m以上 9 m未満	1 0 mを超え 1 5 m未満	9 m以上 1 0 m未満	8 m以上 9 m未満	9 m以上 1 0 m未満	1 0 m以上 1 2 m未満	1 2 m以上 1 4 m未満	1 5 mを超え 2 0 m未満	1 4 m以上 1 5 m未満	1 2 m以上 1 4 m未満	1 4 m以上 1 5 m未満	1 5 m以上 1 7 m未満	2 0 mを超え 2 7 m未満	1 7 m以上 2 0 m未満	2 0 m以上 2 3 m未満	2 3 m以上 2 7 m未満	2 7 mを超え 3 3 m未満	2 3 m以上 2 7 m未満	2 7 m以上 3 2 m未満	3 2 m以上 3 3 m未満
現場制約の有無	打設長	杭長																																																			
有り	1 0 mを超え 1 4 m未満	8 m以上 9 m未満																																																			
		9 m以上 1 0 m未満																																																			
		1 0 m以上 1 2 m未満																																																			
		1 2 m以上 1 4 m未満																																																			
	1 4 mを超え 1 7 m未満	1 2 m以上 1 4 m未満																																																			
		1 4 m以上 1 5 m未満																																																			
		1 5 m以上 1 7 m未満																																																			
	1 7 mを超え 2 0 m未満	1 5 m以上 1 7 m未満																																																			
		1 7 m以上 2 0 m未満																																																			
現場制約の有無	打設長	杭長																																																			
無し	3 mを超え 6 m未満	2 m未満																																																			
		2 m以上 3 m未満																																																			
		3 m以上 4 m未満																																																			
		4 m以上 5 m未満																																																			
		5 m以上 6 m未満																																																			
	6 mを超え 1 0 m未満	4 m以上 5 m未満																																																			
		5 m以上 6 m未満																																																			
		6 m以上 7 m未満																																																			
		7 m以上 8 m未満																																																			
		8 m以上 9 m未満																																																			
	1 0 mを超え 1 5 m未満	9 m以上 1 0 m未満																																																			
		8 m以上 9 m未満																																																			
		9 m以上 1 0 m未満																																																			
		1 0 m以上 1 2 m未満																																																			
		1 2 m以上 1 4 m未満																																																			
	1 5 mを超え 2 0 m未満	1 4 m以上 1 5 m未満																																																			
		1 2 m以上 1 4 m未満																																																			
		1 4 m以上 1 5 m未満																																																			
		1 5 m以上 1 7 m未満																																																			
	2 0 mを超え 2 7 m未満	1 7 m以上 2 0 m未満																																																			
		2 0 m以上 2 3 m未満																																																			
		2 3 m以上 2 7 m未満																																																			
	2 7 mを超え 3 3 m未満	2 3 m以上 2 7 m未満																																																			
		2 7 m以上 3 2 m未満																																																			
		3 2 m以上 3 3 m未満																																																			

ページ	改 正	現 行
P.2-10-3	(削る。)	(5) 改良材使用量区分 1) 改良材使用量を杭施工本数ごとに区分して算出する。また、杭長 1 m 当り改良材使用量についても算出する。 改良材は、セメント系、石灰系を標準とし、現場条件により決定する。なお、改良材のロス（損失＋杭頭・着底部処理を含む）を含んでいるので、改良材使用量は、実数量（ロスによる割増をしない数量）とする。 2) 改良材の杭一本当り使用量は次式により算出する。 _____ $V = v \times L1$ <u>V</u> : 杭一本当り改良材使用量 (t / 本) <u>v</u> : 杭長 1 m 当り改良材使用量 (t / m) <u>L 1</u> : 杭長 (m) 4. 参考図（施工図） The diagram shows a vertical pile. On the left, a double-headed arrow indicates the total length from the top to the bottom, labeled '打設長 (L)'. On the right, a double-headed arrow indicates the length of the pile body, labeled '杭長 (L1)'. Above the pile body, a double-headed arrow indicates the length of the pile head and bottom treatment, labeled '空打部長さ (L 2)'. The pile body is shaded with a stippled pattern.

ページ

P.2-11-1

改正

第 1 1 章 付属施設工

11.1 排水構造物工

11.1.1 排水構造物工（プレキャスト製品）

1. 適用

排水構造物工としてプレキャスト製品によるU型側溝（落蓋形、鉄筋コンクリートベンチフリューム含む）、L型側溝、ヒューム管、ボックスカルバート、蓋版、自由勾配側溝（プレキャスト製品を設置し、底部コンクリートを現場打する）、暗渠排水管（硬質塩化ビニル管、ポリエチレン管等の有孔・無孔管）、管（函）渠型側溝、集水桝、コルゲートパイプ、コルゲートフリューム、マンホール、鉄筋コンクリート台付管を施工する場合に適用する。

3. 区分

区分は、数量算出項目及び区分一覧表によるものとする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

①ヒューム管（B形管）

区分 項目	作業 区分	管径	固定 基礎	基礎 碎石	規格	生コンクリート 規格	単位	数量	備考
ヒューム管（B形管）	○	○	○	○	○	○	m		

注）1. ヒューム管、B形管（ソケット管）の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
2. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難しい場合は、別途考慮する。
3. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。

②ボックスカルバート

区分 項目	作業 区分	製品長	内空幅・ 内空高	基礎材 種別	PC 鋼材による 締固め	単位	数量	備考
ボックスカルバート	○	○	○	○	○	m		

注）1. 1ブロックを1部材で構成するプレキャスト製ボックスカルバート（内空断面が台形タイプの物を含む）の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
2. 対象としている製品は、1ブロックを1部材で構成するボックスカルバートである。
3. 内空断面が台形タイプの場合やインバート形状の場合の内空高、内空幅は、最大値とする
4. 縦締めは、直線部にのみ適用する。
5. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難しい場合は、別途考慮する。
6. 基礎碎石、均しコンクリートの材料は、種別・規格にかかわらず適用できる。

現行

第 1 1 章 付属施設工

11.1 排水構造物工

11.1.1 排水構造物工（プレキャスト製品）

1. 適用

排水構造物工としてプレキャスト製品によるU型側溝（落蓋形、鉄筋コンクリートベンチフリューム含む）、L型側溝、ヒューム管、ボックスカルバート、蓋版、P C管、自由勾配側溝（プレキャスト製品を設置し、底部コンクリートを現場打する）、暗渠排水管（硬質塩化ビニル管、ポリエチレン管等の有孔・無孔管）、管（函）渠型側溝、集水桝、コルゲートパイプ、コルゲートフリューム、マンホール、鉄筋コンクリート台付管を施工場合に適用する。

3. 区分

区分は、数量算出項目及び区分一覧表によるものとする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

①ヒューム管（B形管）

区分 項目	作業 区分	管径	固定 基礎	基礎 碎石	規格	生コンクリート 規格	単位	数量	備考
ヒューム管（B形管）	○	○	○	○	○	○	m		

注）1. ヒューム管、B形管（ソケット管）の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
2. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難しい場合は、別途考慮する。
3. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。

②ボックスカルバート

区分 項目	作業 区分	製品長	内空幅・ 内空高	基礎材 種別	PC 鋼材による 締固め	単位	数量	備考
ボックスカルバート	○	○	○	○	○	m		

注）1. 1ブロックを1部材で構成するプレキャスト製ボックスカルバート（内空断面が台形タイプの物を含む）の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
2. 対象としている製品は、1ブロックを1部材で構成するボックスカルバートである。
3. 内空断面が台形タイプの場合やインバート形状の場合の内空高、内空幅は、最大値とする
4. 縦締めは、直線部にのみ適用する。
5. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難しい場合は、別途考慮する。
6. 基礎碎石、均しコンクリートの材料は、種別・規格にかかわらず適用できる。

ページ

P. 2-11-3

改 正

(略)

(削る。)

⑩コルゲートパイプ

区 分 項 目	作業区分	規格	パイプ径	形式	単位	数量	備考
コルゲートパイプ	○	○	○	○	m		

注) コルゲートパイプの据付、撤去、据付・撤去の場合である。

⑪コルゲートフリューム

区 分 項 目	作業区分	規格	単位	数量	備考
コルゲートフリューム	○	○	m		

注) コルゲートフリュームの据付、撤去、据付・撤去の場合である。

⑫U型側溝

区 分 項 目	作業区分	規格・仕様	施工箇所区分	基礎碎石の有無	単位	数量	備考
U型側溝	○	○	○	○	m		

注) 1. U型側溝の据付、再利用撤去、再利用撤去・据付の場合である。

⑬自由勾配側溝

区 分 項 目	規格・仕様	基礎コンクリートの種類	基礎碎石の有無	底部コンクリートの種類	単位	数量	備考
自由勾配側溝	○	○	○	○	m		

注) 1. 自由勾配側溝の場合である。

⑭蓋版

区 分 項 目	作業区分	規格・仕様	施工箇所区分	単位	数量	備考
蓋版	○	○	○	枚		

注) 1. 蓋版の据付け、再利用撤去、再利用撤去・据付の場合である。

(略)

現 行

(略)

⑩PC管

区 分 項 目	作業区分	管径	固定基礎	生コンクリート規格	単位	数量	備考
PC管	○	○	○	○	m		

注) 1. PC管の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
2. 撤去作業、据付・撤去作業は、PC管のみを対象としている。

⑪コルゲートパイプ

区 分 項 目	作業区分	規格	パイプ径	形式	単位	数量	備考
コルゲートパイプ	○	○	○	○	m		

注) コルゲートパイプの据付、撤去、据付・撤去の場合である。

⑫コルゲートフリューム

区 分 項 目	作業区分	規格	単位	数量	備考
コルゲートフリューム	○	○	m		

注) コルゲートフリュームの据付、撤去、据付・撤去の場合である。

(新設)

(新設)

(新設)

改

P. 2-11-4

ページ

P. 2-13-14

13. 10 断面修復工（左官工法）

1. 適用

コンクリート構造物の断面修復における 1 構造物当りの左官作業に適用する。

2. 数量算出項目

断面修復工（左官工法）の修復延べ体積、コンクリート殻積込・運搬の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無、D I D区間の有無、運搬距離とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区 分			鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無	D I D区間の有無	運搬距離	単 位	数 量	備 考
断面修復工（左官工法）	修復延べ体積		○			m3		
	コンクリート殻積込・運搬			○	○	m3		

注)1. 現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。
2. コンクリート殻の 処分費は別途計上する。
3. 足場等については、現場条件を考慮の上、別途計上する。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第 1 編 共通 第 1 章 基本事項」によるものとする。

13. 10 断面修復工（左官工法）

1. 適用

コンクリート構造物の断面修復における 1 構造物当りの左官作業に適用する。

2. 数量算出項目

断面修復工（左官工法） を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無 とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区 分		規格	鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無			単 位	数 量	備 考
断面修復工（左官工法）	修復延べ体積		○			m3		

注)1. 現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。
2. コンクリート殻の積込み・運搬及び処分費は別途計上する。
3. 足場等については、現場条件を考慮の上、別途計上する。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第 1 編 共通 第 1 章 基本事項」によるものとする。

ページ	改 正	現 行																																
P. 2-15-13	15. 6 締切排水工 (略) 3. 区分 区分は全揚程とする。 (1) 数量算出項目一覧表 <table><tr><th>項 目</th><th>揚 程</th><th>単 位</th><th>数 量</th><th>備 考</th></tr><tr><td rowspan="3">締 切 排 水 量</td><td>10m以下</td><td>m3／h</td><td></td><td></td></tr><tr><td>10mを超え 15m以下</td><td>m3／h</td><td></td><td></td></tr><tr><td>15mを超えるもの</td><td>m3／h</td><td></td><td>全揚程（m）も算出する。</td></tr></table>	項 目	揚 程	単 位	数 量	備 考	締 切 排 水 量	10m以下	m3／h			10mを超え 15m以下	m3／h			15mを超えるもの	m3／h		全揚程（m）も算出する。	15. 6 締切排水工 (略) 3. 区分 区分は全揚程とする。 (1) 数量算出項目一覧表 <table><tr><th>項 目</th><th>揚 程</th><th>単 位</th><th>数 量</th><th>備 考</th></tr><tr><td rowspan="3">締 切 排 水 量</td><td>15m以下</td><td>m3／h</td><td></td><td></td></tr><tr><td>15mを超えるもの</td><td>m3／h</td><td></td><td>全揚程（m）も算出する。</td></tr></table>	項 目	揚 程	単 位	数 量	備 考	締 切 排 水 量	15m以下	m3／h			15mを超えるもの	m3／h		全揚程（m）も算出する。
項 目	揚 程	単 位	数 量	備 考																														
締 切 排 水 量	10m以下	m3／h																																
	10mを超え 15m以下	m3／h																																
	15mを超えるもの	m3／h		全揚程（m）も算出する。																														
項 目	揚 程	単 位	数 量	備 考																														
締 切 排 水 量	15m以下	m3／h																																
	15mを超えるもの	m3／h		全揚程（m）も算出する。																														
	P. 2-15-19	15. 9. 2 雪寒仮囲い工 1. 適用 積雪寒冷地の冬期における土木構造物の施工において、平均設置高 15m以下の「雪寒仮囲い」の設置及び撤去に適用する。 2. 数量算出項目 雪寒仮囲いの面積を区分ごとに算出し、特殊養生は対象とするコンクリート体積を算出する。 (略)	15. 9. 2 雪寒仮囲い工 1. 適用 積雪寒冷地の冬期における土木構造物の施工において、平均設置高 30m以下の「雪寒仮囲い」の設置及び撤去に適用する。なお、Pタイプで設置高 4mを超える場合、小型構造物には適用しない。 2. 数量算出項目 雪寒仮囲いの面積を区分ごとに算出する。 (略)																															